

お金の心配なく学べる国に



鴨田 謙さん
(埼玉奨学金問題ネットワーク
事務局長、弁護士)

昨年9月に有志が集まり、埼玉奨学金問題ネットワークが設立され、私が事務局長をしております。

借りたいが、借りても返せない奨学金

かつての日本育英会がなくなり、10年前に独立行政法人「日本学生支援機構」という組織に変わりました。

大学へいきたいがお金がないという人に、300万円から800万円を貸しています。大学を卒業して原則として半年たつと返還が始まります。月1万円～3万円を返していくわけですが、今は就職難で、卒業しても就職できない人、就職できたのはいいが非正規労働。今若い人の5割ぐらいが非正規です。賃金が安いので、奨学金を借りても返せないのです。

しかし、学生支援機構は、返せない人に対して、何ヶ月か延滞するとブラックリストに載せたり、裁判をおこなってまで厳しく取り立てる。消費者金融と同じような手法であり、奨学金事業でそんなことをやっていいのかと問題になっています。

大学の学費がものすごく上がっているため、奨学金の利用者も増えています。

今から54年前、1960年には、国立大学の学費は1年間に1万円の時期があります。私立大学でも1年間で7万円でした。

しかし2010年には、私立大学は初年度131万円(文系・理系などの平均)、国立大学でも81万円払わないと大学にいけない。一方で親の収入は逆に下がっており、1988年の親の世代の平均年収は544万円だったのが、2009年は438万円、10年間で100万円以上も下がっているのです。

金がないなら頑張って国立大学へいけばいいじゃないかという方もありますが、国立なら何とかなるという時代でもありません。

大学にいかなくても高卒で働けばいいではないかというご意見もありますが、1992年には、新規高卒者に対する求人数が167万件あったのが、どんどん減ってきて、2010年は19万件しかない。新規高卒者の求人が9割近く減ってきています。高卒では就職できないから奨学金を借りて大学へいく、という構造になっています。

もうひとつこれは誤解ですが、高校生は勉強しようがしまいがみんな大学へいく、いきすぎなのではないかと言われる方もあります。しかし、アメリカや韓国の大学進学率は7割台で、OECDの平均でも62%。しかし日

